

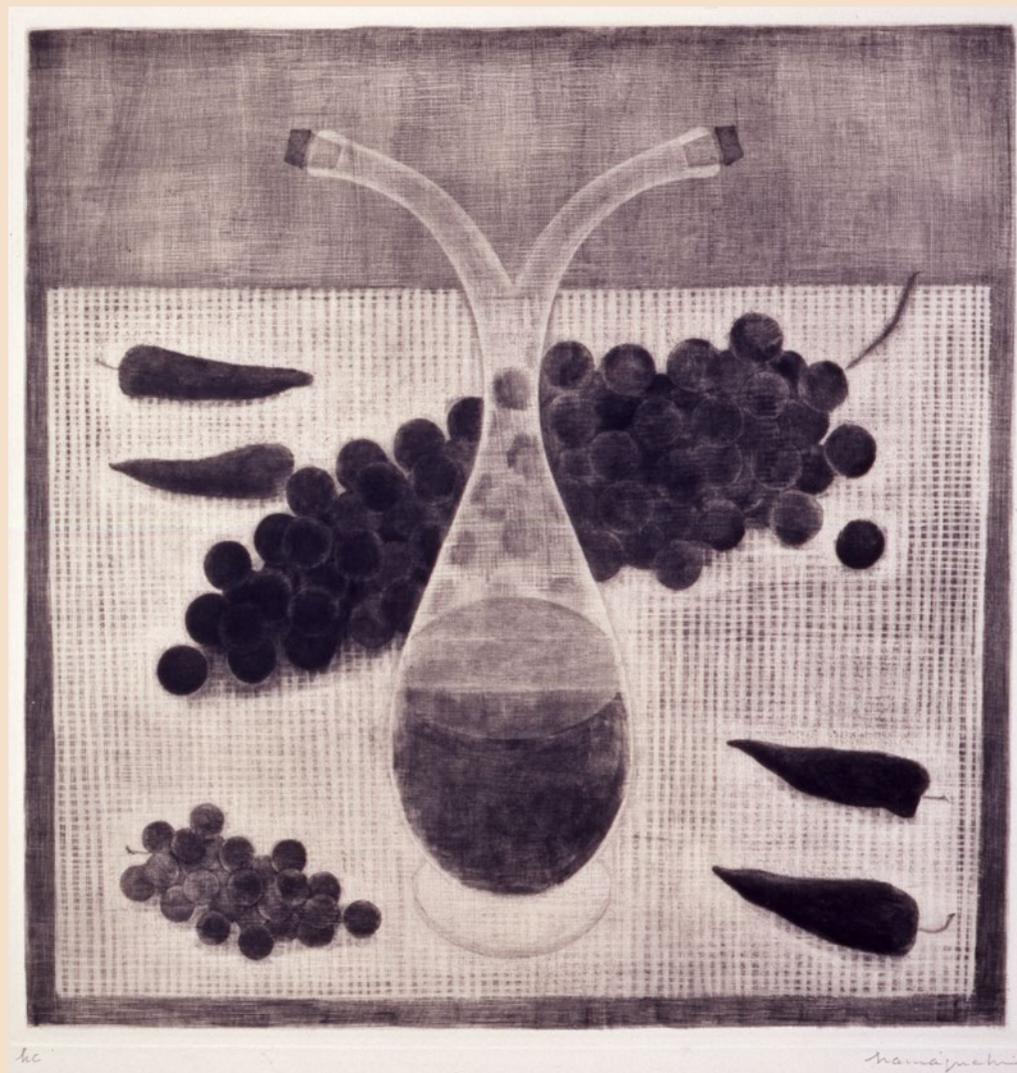
ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション
2023年春のコレクション展

浜口陽三の世界 柔らかな光と闇

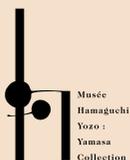
～ 浜口陽三とフランス文学者
柏倉康夫氏との対談より～

hamaguchi

2.11 → 5.7
Sat. Sun.



《スペイン風油入れ》“Spanish Oil Bottle” 1954年 メゾチント 28.8×28.7cm 戦後パリでの第一作



Musée
Hamaguchi
Yozo :
Yamasa
Collection

ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

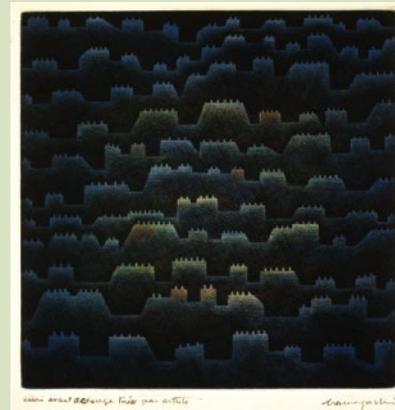
[休館日] 月曜日 ただしGW4/29～5/7は連日10:00より開館します。
[開館時間] 11:00～17:00(土日祝は10:00～)、最終入館16:30
♪ナイトミュージアム…会期中の第1・3金曜日*は20:00まで開館、最終入館19:30
(*2/17、3/3、3/17、4/7、4/21、5/5)
[入館料] 大人600円/大学・高校生400円/中学生以下無料



《4つのさくらんぼ》“Four Cherries” 1963年 カラーメゾチント 23.3×54.2cm



《蝶》“Butterfly” 1967年 カラーメゾチント 11.4×11.5cm



《パリの屋根》“Roofs of Paris” 1956年 カラーメゾチント 18.3×18.4cm

モンマルトルの丘から見た風景のイメージをおよそ20年後に銅版画に表した作品
4/1(土)～4/16(日)まで期間限定で展示します。

かしわくら やすお 柏倉 康夫

1939年東京生まれ。東京大学文学部フランス文学科卒業。NHK解説主幹。京都大学大学院文学研究科教授を経て、放送大学教授・副学長・付属図書館長。現在同大学名誉教授。京都大学博士(文学)。フランス共和国国家功労勲章シュバリエを叙勲。主な著書に、『生成するマラルメ』(青土社、2005年)、『評伝 梶井基次郎—視ること、それはもうなにかなのだ』(左右社、2010年)、『思い出しておくれ、幸せだった日々を 評伝ジャック・プレヴェール』(左右社、2011年)、ジャン＝リュック・ステメンツ『マラルメ伝—絶対と日々』(共訳、筑摩書房、2004年)、ステファヌ・マラルメ『詩集』、『賽の一振り』(共に月曜社、2018年、2022年)など

浜口陽三は20世紀後半を代表する銅版画家です。この展覧会は、本人の回想をもとに、創作の秘密の一端をひもときます。

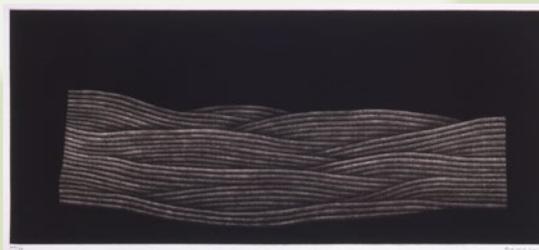
1930年、浜口は東京美術学校の彫塑科を退学し、国際芸術都市パリに赴きました。その地で油彩画や水彩画を試みますが、第二次世界大戦勃発のためやむなく帰国し、戦後、40歳を過ぎる頃、はじめて銅版画に本格的に取り組みはじめます。その後、再びパリに渡ると版画家としての道を一気に切り開きました。

生前、自作について饒舌には語らなかつた浜口陽三ですが、1987年、東京で行われたインタビューの朗らかな対話からは、静かな作品が、いつも柔らかな発想と探究心に支えられていたことが浮かび上がってきます。聞き手は、NHK特派員として7年間パリに住み、作家と交流のあったフランス文学者、柏倉康夫氏です。

11年前に展覧会でとりあげたインタビューを、その後、発見された作品や資料を加え、新たな角度から紹介します。

インタビューより 作品タイトルについて

柏倉:～先生は日本語で考えられるのですか、それともフランス語ですか。
浜口:ときによりますね。たとえば、日本語のタイトルが《野》(1985年)となっている作品は、原画は五年も前に描いて、ようやくつくったものですが、出来上がったときタイトルをまずフランス語で、Un coup de champと考えて、それをロサンゼルススのヴォーバル・ギャラリーの女の子に直してもらいました。A bit of field.しかし、これは日本語にならないんです。直訳すれば、「野原の一切れ」というもおかしいので、日本語の題は単に「野」としてあります。



《野》“Field” 1985年 メゾチント 23.3×54.5cm

銅版画体験教室 詳細はHPにて

3/12(日) 午前の部 10:00～13:00
午後の部 14:00～17:00

講師: 江本創(美術家) 定員: 各10名
参加費: 1800円+入館料
受付: 2/12(日)12時より電話にて
(電話受付は美術館開館時間に準じます。)

ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-35-7

Tel_03-3665-0251

Mail_musee@yamasa.com

HP_https://www.yamasa.com/musee/

アクセス_東京メトロ半蔵門線[水天宮前]3番出口そば

東京メトロ日比谷線[人形町]A2出口徒歩8分

首都高速箱崎IC[浜町出口]または[清洲橋出口]T-CAT駐車場前



当館はぐるっとバスに参加しています。

